

平成 22 年度予算特別委員会・企画調整局（平成 22 年 3 月 4 日）

質疑者 北山 順一

### 新長田駅南への市の部局等の移転、JR 新長田駅東口開設について

昨年 10 月に鉄人 28 号のモニュメントが完成して、土日の商店街の人通りは結構多いのだが、平日は、再開発ビルの地下はいまだに「シャッター通り」になっている。

これまでも何度も言い続けてきたように、新長田再開発ビルに市の部局をぜひ移転していただきたい。昨年 2 月には、行財政局の税部門が移転をした。今後、どんどん続いていくものだと期待をしていたが、残念ながら後が続いていない。

本当に「オール神戸市役所」で応援するというのであれば、大神ビルに入っている市の部局や、交通局や、貿易センタービルに入っている外郭団体の事務所をぜひ移転してもらいたい。また、あわせて新長田の活性化のために、JR の快速電車の停車とともに、新長田駅の東口の改札を開けていただかなければならないということについて、特にこれは強く JR に対して働きかけ、これこそオール神戸市役所に対応していただきたいということをお願いしておきたい。

答弁者 三木 部長

再開発ビルの空き床対策として、神戸芸術工科大学が新会社を設立して、「アニタス神戸」を立ち上げて、これが 3 月に本格稼働する。また、全大学の学長と市長との懇談会を定期的で開催しており、その中で各学長に再開発ビルを活用したサテライト教室等の設置をお願いしており、ご検討いただいている。

企画調整局としては、新長田エリアの活性化については、今後とも全庁一丸となって取り組んでいくべき課題であると考えており、引き続き公共公益施設等の誘致について、都市計画総局と連携して、必要な支援を行っていきたいと考えている。

JR 新長田駅の東口の改札であるが、これも一昨年の 11 月に都市計画総局が JR 西日本と協議しており、新長田駅の快速停車とあわせて、東口の開設についても話をした。ただ、構造上の問題、あるいは人員の問題からも難しいという回答をいただいているというのが現状である。

#### （意見）

新長田の快速の停車と東口の開設についてはダメというのは JR が言っているわけである。皆さんはダメなものはどうするか、ということを考えてもらわないといけない。

### さわやかな「風を感じるまち神戸」の推進について

「健康を楽しむまちづくり」、「デザイン都市」、そして「観光都市」に取り組んでいる神戸において、健康かつデザイン性にあふれた、しかも快適かつ安全が確保され、そして環境にやさしいまちづくりともなる、自転車専用道路のネットワークを整備していくことが一番だと考えている。

ストックホルムでは市内移動の 50% を自転車にしようという目標が立てられている。また、韓国では驚くことに、38 度線に沿って、500km もの自転車専用道路をつくって、観光客の誘致をしようと言っている。

芦屋から明石まで、ウォーターフロントを横断する快適な自転車道路を整備し、すばらしい神戸のまちを風で感じ、今はやりのファーストフードの生活から転換し、スローな生活を楽しむまちの実現を目指していったらいいかと思うが、見解を伺いたい。

答弁者 山本 局長

自転車については、健康志向の高まりなどから利用ニーズが高まっており、また、ヨーロッパなどでは安心・

安全な自転車レーンの整備が進められている。ご提案のウォーターフロントを東西に結ぶといった形のは、魅力的な提案だと思っている。

海を身近に感じられるウォーターフロントは自転車走行に適した環境を有しており、自転車道の整備、あるいはパリのヴェリブのようなレンタサイクルの導入といったものが提案されている。

ウォーターフロント地区については、「神戸づくりの指針」の素案の中でも、快適な自転車の利用環境の整備といった形で、現在審議いただいているところである。

まずは、都心部のウォーターフロントを中心に自転車利用環境などのあり方の検討の推進を図っていきたいと考えており、神戸づくりの指針においても、自転車の利用環境について、十分に議論していきたいと考えているのでご理解いただきたい。

### **(意見)**

今の局長の答弁では、あんまりさわやかな風が感じられなかった。まず、栄町あたりを見て欲しい。コインで駐車のできるスペースがいっぱいある。あれは車の通行する道路としては必要ないということではないのか。自転車専用道路にしようと思えばできる。局長の決断次第でできる、と私は思っている。